がまだすドームの紹介

雲仙岳災害記念館（愛称：がまだすドーム）は、雲仙普賢岳噴火災害の資料を展示する火山博物館です。平成の噴火の被災物のほかに、火山学習の体験ができるコーナーや火砕流をリアルに再現するコーナー、平成の噴火災害をドキュメンタリー風に紹介するシアター、約２３０年前の島原・肥後を襲った大変の出来事を紙芝居風の劇で紹介するコーナーなど、多くのコンテンツをそろえています。当館は常設展示のほかにも、こどもたちがジオパーク（自然の公園）をイメージした遊具の中で自由に体を動かし遊べる「こどもジオパーク」や、身近な材料でワークショップや実験が体験できる「ワンダーラボ」など、参加者が主体的に体験できるコーナーが特色です。
※『がまだす』とは島原の方言で「がんばる」という意味を持ち、災害からの復興を表しています。地元島原への愛着や誇り、そして共に成長できるような施設を目指しています。

がまだすドーム巡回展
1991
『雲仙普賢岳噴火災害』
を振り返る IN 熊本博物館

会　　期：令和2年9月9日（水）～10月11日（日）
開場時間：9：00～17：00
会　　場：熊本博物館
（〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町3-2）
主　　催：熊本博物館・雲仙岳災害記念館
お問合せ：熊本博物館
電　　話：096-324-3500
※観覧には博物館の入場料が必要です。

ジオと火山の体験ミュージアム
Gamadas Dome
がまだすドーム

雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）
住所：長崎県島原市平成町1-1
TEL：0957-65-5555

がまだすドーム巡回展

1991
『雲仙普賢岳噴火災害』
を振り返る
IN 熊本博物館

令和2年9月9日（水）～10月11日（日）

◎開場時間：9：00～17：00　◎会場：熊本博物館2階特別展示室3（熊本市中央区古京町3-2）

雲仙岳災害記念館

ごあいさつ

この度、熊本市立熊本博物館にて、雲仙岳災害記念館巡回展「1991 雲仙普賢岳噴火災害を振り返る」を開催する運びとなりました。

２０２０年(令和2年)で、雲仙普賢岳の噴火から３０年が経過します。雲仙普賢岳噴火災害は、その終息宣言が出る6年にわたる長い災害を経て、日本全国からのあたたかい支援を受けながら、復興した今の島原半島があります。振り返れば、平成の時代に入って、２年の雲仙普賢岳噴火７年の阪神淡路大震災、23年の東日本大震災と非常に大規模な自然災害が続き、２８年の熊本地震や、各地で発生した大雨等による災害など毎年のようにどこかで災害が発生していた日本列島でした。未だ被災地では避難生活や復旧のまっただ中にある地域も少なくありません。

雲仙岳災害記念館は、この災害に関わる施設として、災害の伝承から防災、火山を知る自然史系博物館として平成１４年7月に開館をしました。今回の企画展示は、雲仙普賢岳を中心に、裾野に広がる島原半島の話、雲仙火山、噴火災害、火山の恵みなどや災害遺産に関する展示を含めて、この３０年を振り返る大きな機会として、皆様にお伝えしたいこと、私どもの役割をあらためて認識していく場にしたいと考えています。

最後になりましたが、企画展開催の場を戴きました熊本博物館の多大なご協力に感謝いたしますと共に、ご教示･ご支援いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。ぜひ、雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)へも足をお運びいただければと思います。

令和2年9月9日

雲仙岳災害記念館　館長　宮脇好和

雲仙岳噴火災害年表

1990(平成2年)	11.17	普賢岳(九十九島･地獄跡火口)より噴煙が上がる
1991(平成3年)	2.12	普賢神社付近に新たな火口が出現(屏風岩火口と命名)
	5.15	水無川流域で初めての土石流が発生
	5.20	地獄跡火口に**「溶岩ドーム」**が出現
	5.24	初めての「火砕流」が発生
	5.26	小規模な火砕流が発生. 初めての負傷者が出る. 島原市は北上木場町など5町内に避難勧告
	5.27	島原市と深江町に対し「災害救助法」適用
	6.3	午後4時8分大火砕流が発生. **死者･行方不明者43名**、午後6時10分陸上自衛隊に災害派遣を要請
	6.7	島原市は8町内(356世帯)に災害対策基本法第63条に基づく「警戒区域」を設定(居住地へは初)
	6.8	午後7時51分大火砕流発生. 国道57号線付近に到達. 深江町は**「警戒区域」**に設定
	6.11	爆発的噴火により噴石発生
	6.22	霊丘公園内に仮設住宅が完成し入居が始まる
	6.30	水無川で発生した土石流が有明海まで到達する
	7.10	被災地慰問のため**天皇･皇后両陛下行幸啓**
	9.15	深江町方向に大火砕流発生. **大野木場小学校**が被災
1992(平成4年)	9.26	雲仙岳災害対策基金が設立(300億円、のち1,090億円)
	8.8	台風10号の豪雨で水無川流域に大規模土石流が発生
1993(平成5年)	**6.23**	中尾川上流の千本木地区に火砕流が流下. **死者1名**
1996(平成8年)	5.1	最後の火砕流が発生. 火砕流総数9,432回
	5.30	九州大学島原地震火山観測所が噴火終息との見解
	6.3	終息宣言

11月17日　噴煙が上がる

6月3日　大火砕流

6月8日　火砕流あと

展示物リスト

近年、全国各地で自然災害が発生しています。自然現象を正しく理解し、次への防災につなげることはいうまでもありませんが、同時に地域の歴史や文化とともに当時の災害を振り返ることも大切なことです。長崎県島原半島で起こった雲仙普賢岳噴火から今年で３０年。当時、熊本市内にも普賢岳からの火山灰が降り、有明海越しに赤く光る溶岩が見えていました。あの時、火山周辺では何が起きていたのかを写真パネルや実際に被災した資料とともにふりかえります。当時を語る噴火や災害の写真を通して、火山の脅威や災害への心がまえ、災害を乗り越えていく市民の様子をみていきます。また、江戸時代の噴火では、熊本側でも多くの犠牲者を出した災害もありました。平成の噴火資料に合わせて、熊本側から見た災害の絵図も紹介します。

展示パネル

1	はじめに
2	九州の火山と雲仙火山
3	九州を南北に分断する大きな裂け目
4	島原半島と雲仙普賢岳
5	山や町の変化
6	様々な噴火現象と災害(1)
7	様々な噴火現象と災害(2)
8	溶岩ドームが出現
9	火砕流が起きた
10	火山灰が降る
11	土石流が続く
12	暮らしが激変(1)
13	暮らしが激変(2)
14	暮らしが激変(2)続き
15	雲仙火山の歴史
16	絵図から当時を読み解く
17	最新の研究から大変を読み解く
18	雲仙火山の防災
19	火山の恵み(1)
20	火山の恵み(2)
21	雲仙火道掘削プロジェクト
22	束状の火道を発見
23	防災と復興
24	がまだすドームの紹介(1)
25	がまだすドームの紹介(2)
26	噴火前と後の山の様子「いまむかし」

展示資料

1	デイサイト
2	火山灰
3	噴石
4	カメラ
5	カメラレンズ
6	教室の机
7	教室のイス
8	アルミ缶
9	ビールケース
10	時計
11	雨どい
12	靴
13	ガラス瓶

1. デイサイト(雲仙普賢岳噴火の際に固まってできた溶岩)

10. 被災した時計(数百度の火砕流により溶けて変形した時計)